2025年4月現在　研究業績リスト（直近5件程度、年度ごと、平易和文要約、検索キーワード）

所属　：　臨床検査学科　髙嶋眞理

	区分	タイトル	著者	掲載誌名 出版(刊)年/巻数/号数 /page/URL	要約（抄録）
1	論文（和）	血液凝固 cross-mixing test の疑似異常検体 （即時型のインヒビター）の作製について　第２報	髙嶋眞理	新渡戸文化短期大学雑誌　第10号 P35-40, 2020	学内実習で安全・安価を目的に血液凝固 cross-mixing testにおいて「即時型のインヒビターの疑似異常検体作製」を目的とした第2報である。
2	論文（英）	A high titer anti-factor XI autoantibodies which were identified from the patient with complicated laboratory results	M Takashima, H Inaba, PhD, K Amano, MD,PhD, K Shinozawa, Ph,and K Fukutake, MD,PhD	東京医科大学雑誌,77(1),66-67 (2019-01-30) , 0040-8905	止血困難な患者を通して、臨床検査を通して検査方法を組み合わせることで原因を確定することができた。
3	論文（和）	第VIII 因子と第IX 因子に対する2 種の発色性合成基質法を応用した新たな検査手順により確定診断した高力価自己抗体を持つ後天性第XI 因子欠乏症	髙嶋 眞理, 稲葉 浩, 天野 景裕, 篠澤 圭子, 福武 勝幸	日本血栓止血学会誌　30 巻 3 号 P 534-543,2019	突然筋肉内出血などの自然出血を繰り返し、明らかなAPTT延長を認めたが診断に難渋した患者について、発色性合成基質法による凝固因子定量法を用いて第XI因子に対する特異抗体を確認する検査室診断の新しい手順を開発した。
4	論文（和）	学内実習のための安価で簡易なクロスミキシング疑似検体の作製	山口　航, 瀬川 美桜, 瀧口　響子, 髙嶋　眞理, 眞鍋　紀子	日本臨床検査学教育学会機関誌 VoL.No.1 P14-18,2018	第11回　日本臨床検査学教育学会学術大会2016年 8月31日（水）～にて「血液凝固cross-mixing testの疑似異常検体（即時型のインヒビター）の作製について」を発表した際に他学の先生と学内実習における疑似検体作製の実験を行い、安価で安全な検体を考えた。
	発表抄録	A high titer antifactor XI autoantibodies which were identified from the patient with complicated laboratory results	髙嶋　眞理　篠澤　圭子　稲葉　浩　天野　景裕, 福武　勝幸	第 182 回　東京医科大学医学会総会	止血困難な患者を通して、合成基質法と凝固一段法を用いて原因を確定した。
	発表抄録	高力価の凝固因子インヒビターにより複数の凝固因子が低値を示し診断に苦慮した1例	髙嶋眞理、稲葉　浩、天野景裕、 篠沢圭子、福武勝幸	第 38 回　日本血栓止血学会	止血困難な患者を通して、臨床検査を通して検査方法を組み合わせることで原因を確定することができた。
5	論文（和）	血液凝固cross-mixing testの疑似異常検体（即時型のインヒビター）の作製について	髙嶋眞理　篠澤 圭子　福武 勝幸	新渡戸文化短期大学学術雑誌0７ P11-16,2017	学内実習において、血液凝固cross-mixing testを学生にわかりやすく理解してもらうことを目的により明確に疑似異常検体を作製した。11回　日本臨床検査学教育学会学術大会にて発表した。